

# 鹿児島医セン

連携室だより

2019.1

vol. 153

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)



新年明けまして  
おめでとうございます。

院長 田中 康博

平成31年(2019年)明けましておめでとうございます。平成最後の正月、新しい元号元年と大きな節目を迎えるにあたりご挨拶を申し上げます。

昨年は鹿児島通信病院との診療機能移転と410床への病院規模拡大という大きな出来事がありました。大変なこともありますが、半年ほどで安定してきたと思っております。職員並びに院外の各関係者のご理解とご協力によるもので感謝申し上げます。新たに腎臓内科や肝臓内科、眼科が新設されました。月ごとに目に見える実績を出していますが、さらに発展することを期待しております。当院は「良い医療、規範となる医療をフットワーク良く提供する」をモットーに努力していますが、各分野充分に発揮できた一年であったと思っております。

## 【心臓血管】

一昨年6月から始まったカテーテルによる大動脈弁置換術(TAVI)80件になりました。TAVIは大動脈弁狭窄症を患う高齢者の治療選択肢が増えたことに大きな意義があり、貢献度も大きいと感じています。虚血、不整脈のカテーテル治療法も多くの患者さんに提供できました。心臓血管外科も心臓から抹消血管ほほすべてに対応可能となり、手術数も増加しています。特に人工心肺を使わない拍動下の冠動脈バイパス手術、慢性閉塞性動脈硬化症のバイパス術が増えています。

## 【脳卒中】

脳梗塞治療法も従来のtPA(血栓溶解)とカテーテルによる血栓除去術の症例も増えてきています。高度急性期治療が可能なのは、迅速な対応ができるチーム、組織の上に成り立っています。今後、益々カテーテル治療が増えるものと思っております。

## 【がん】

各がん関連の診療科で多くの患者さんを診てきました。ノーベル賞受賞の本庶佑先生が発見した免疫チェックポイント抑制剤などの使用も増えてきていますが、安心してがん治療ができるように副作用、合併症にも対応できる体制づくりをしています。今年さらには患者さんの治療・生活・就業などもサポートする体制をもっと充実すべきと考えています。

さて、当院診療の3本柱の概要を述べましたが、当院には横断的に診療を行ってくれる診療科の協力のおかげで成り立っています。キーポイントは高齢化、腎機能低下、心機能低下、糖尿病、高血圧症などの合併を有するハイリスク患者です。あらゆるハイリスク患者に即座に対応する麻酔科スタッフ、血糖の管理をする糖尿病スタッフ、腎不全に対応するスタッフ、眼病変に対応する眼科スタッフそして周術期、急患に対応する救急部・集中治療室スタッフが、どんな重症患者もベストを尽くして最高のパフォーマンスを出してくれています。病院一丸となって少しでも多くの方々の命を救うことが当院に課せられた使命と思っております。今年も皆さんと一緒に病気の事やその対応策など一緒に考えていきましょう。私たちは「健康」を商品とするサービス業です。病気にならないようにするのが一番ですが、病気になった時に素早く対応し、健康を回復する手助けをしたいと思っております。今年もよろしくお願いいたします。

# 幹部年賀状



副院長  
中島 均

明けまして、おめでとうございます。

昨年から副院長を拝命し早いもので2年目を迎えております、まだ新米ですので慣れない管理職業務に悪戦苦闘しております。今一番の問題は全国全ての地域の共通課題としてあげられる地域医療構想を踏まえた上で、病院の病床機能をどの様にしていくかという事であろうと思います。もちろん当院は高度急性期、急性期に特化し地域の高度医療を担うべき病院としてたちゆくようにしていかなければならないのですが、国立病院機構病院には公的補助もないなかで採算ベースに乗せていく必要もあり、日々頭を悩ませています。病院経営上非営利とは言いながら何とか赤字だけは出さない様にしないと、思い通りの設備投資もままなりません。そう言いながらも当院の鹿児島医療圏における役割は明快で心臓病、脳卒中、がん診療を中心に県民、県内医療関係者、医療担当者の方々のニーズに応えるべく院内体制整備の充実を目指して、職員一同こころざしを一つにして、努力を重ねているところであります。また昨年からは医療安全も担当しております。毎日インシデント、アクシデントレポートの報告を受けており、正月くらい何事もない平穏な日々が続かないものかと祈っているところです。今年も一年何卒ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



統括診療部長  
松崎 勉

明けましておめでとうございます。

昨年は「西郷どん」で、鹿児島は大いに盛り上がりました。私なりに振り返りますと、当医療センターも大いに飛躍する年にと感じておりましたが、力不足で皆様の期待に応えられたがいささか疑問の残る年となってしまいました。当院の体制も少し安定してきつつありますので、本年はもう少し期待に応えられるよう精進して参りたいと思います。

さて、昨年11月30日に厚生労働省は、「アドバンス・ケア・プランニング」の愛称を「人生会議」と選定したと発表し、「いいみとり」「いいみとられ」の語呂にちなんで、同日を人生会議の日と決めました。命を救うという医療本来の目的は変わりませんが、高齢化社会での個人の様々な価値観も大事にすることが求められているところかと思えます。当院のがん部門においては、拠点病院として、質の高いがん医療はもとよりですが、緩和ケア提供体制、がん相談体制など進めてまいりましたが、まだまだ国民のがん医療に対する評価は満足できるものではないようです。新年早々、恒例の「緩和ケア研修会」に続いて、「患者の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会」を開催することになっています。今年は、「人生会議」について推進する1年にしたいと思います。

2018年の今年の漢字が「災」となりましたが、2019年は「福」となりますよう、当院も組織力を発揮し、皆様との連携をさらに進めていければと考えております。

本年も、どうぞ宜しくお願い致します。



臨床研究部長  
城ヶ崎 倫久

明けましておめでとうございます。

さて、昨年4月に臨床研究法が施行されました。この法律の規制対象は、製薬企業から資金提供を受けた臨床研究と未承認・適応外薬品を使った臨床研究です。これまで介入研究として分類されていた臨床研究も努力義務として規制対象になりました。当院で行われているほとんどの研究は観察研究ですが、介入研究もあります。今後、介入研究をする場合は自施設の倫理審査委員会では審議できなくなりました。他施設の認定倫理審査委員会に向いて審議してもらう必要が出てきましたので、より面倒になり、また審議費用もかかるようになりました。臨床研究の敷居が高くなってしまい、研究者の意欲が削がれることを危惧しています。

また、昨年は嬉しいこともありました。連携大学院大学院生の梅橋功征君が「Interleukin-33 induces interleukin-8 expression via JNK/c-Jun/AP-1 pathway in human umbilical vein endothelial cells.」という論文で、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科博士課程の学位(医学博士)を取得しました。すでに学位を取得した山本将義君に引き続いて、当院の連携大学院出身の学位第2号になりました。これからも当院から学位取得者が増えてくれることを期待しています。

今年もよろしくお願い申し上げます。



メディカルサポート  
センター長 兼  
地域医療連携室長

**園田 正浩**

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、地域医療支援病院として、皆様からの多大なご指導とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

現在医療は細分化・高度化していますが、単一の医療機関ですべてを完結させることは不可能であり、地域の診療所・医院(かかりつけ医)および地域中核病院との連携が不可欠であります。

メディカルサポートセンターでは、これからも、地域医療連携、入退院支援、がん相談支援を3本柱として、“顔の見える連携”を目指し活動します。病院訪問等を通じて、前方・後方の連携を取れるように病診連携を充実させていきたいと思っております。

まだまだ力不足のところ、日々改善を目指して、職員が一丸となって取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

なお、準救急・救急を要する患者さん、および紹介する診療科が不明の患者さんがおられた場合には、日中においては救急科が対応しますのでご連絡ください。



事務部長

**森 幸一**

新年明けましておめでとうございます。

昨年は当院の運営等につきまして、いろいろご協力いただきありがとうございました。

昨年の4月鹿児島通信病院との医療機能の移転により、肝臓内科の診療機能を加えた消化器内科、眼科及び腎臓内科の診療機能の強化が図られ、病床規模も40床増床し410床となりました。

事務部門としては、診療部門で強化された診療内容をいち早く、鹿児島市民、鹿児島県民のみならずへお届けできるよう、ホームページの充実、院内広報誌である「鹿医センタより」による情報提供を行って参りましたが、まだまだ不十分などころが多々あると思えます。

本年度は、当院にとっては、40床増床の是非等勝負の年となります。診療情報をわかりやすく迅速に、また、診療部門及び看護部門が実施する市民公開講座及び各種の勉強会をサポートすることで、今後とも患者さん医療関係者のみなさまへ当院での診療内容等を発信して参ります。少しでもみなさまのお役に立てるよう努力いたします。

また、地域包括システム構築が求められている中、病床の機能の分化・連携、効率的で質の高い医療供給体制の構築が進みつつあります。少しでも在宅医療を含む地域包括ケアシステム構築の一助となるよう努力して参ります。

平成31年10月からの消費税アップが現実味を帯びている中、病院の事務部門として、しっかり医療材料費の削減、施設基準の検討等実施し、地域の医療機関の先生方、患者さんに求められる病院を目指したいと考えています。

最後に、皆様方の役に立つ病院、ひいては信頼される病院となるよう事務部一丸となって取り組んで参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



看護部長

**木佐貫 涼子**

新年あけましておめでとうございます。

日頃より当院の運営につきましては皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

昨年は鹿児島通信病院の診療機能移転により病床数410床となり、新病棟の東8階体制整備と救急受け入れをスムーズに行えるよう病院全体で取り組んでまいりました。入退院支援では充実に向け入院支援専従ナースを2名配置し新たな体制としました。今後更に入院前支援の重要性を考えた体制作りを強化し、患者さま方へのケアや地域との連携など満足いただけるよう努力してまいりたいと思っております。昨年新たに皮膚排泄ケア認定看護師1名、循環動態に係る薬剤投与関連の特定行為研修修了者が1名誕生し活動しております。今年4月には大学院修士課程にて医学的知識と特定の医行為を学び看護師としてのケア能力と医学の知識を持った2名の看護師が当院で活躍します。役割を發揮しチーム医療、地域医療へ貢献できますよう支援していきたいと考えております。がん・心臓病・脳卒中エキスパート研修や新人研修など多くの方々に参加していただき感謝申し上げます。これからも継続して取り組み、今後も皆様との顔の見える連携強化のもと貢献できるよう努力してまいりたいと思っております。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

# 第125回 日本循環器学会九州地方会にて 最優秀賞を受賞



平成30年12月1日（土）、福岡にて第125回日本循環器学会九州地方会が開催されました。本学会の研修医セッションにおいて、当院初期臨床研修医2年目中馬佳奈子先生が循環器内科研修中に経験した症例を発表し、見事に最優秀賞を受賞されました。

タイトルは、「心不全発症を契機に診断した総腸骨動脈瘤下大静脈穿破の1例」の演題で、発表内容、プレゼン、スライド、持ち時間、質疑応答とも高く評価されての受賞となりました。

本人の努力はさることながら直接指導された石川裕輔先生をはじめ、各指導医や他科の先生方のご指導の賜であると思います。

九州・沖縄で研修されている研修医の中で当院の研修医が第一位を取ったということは、当院の研修プログラム「城山」が最優秀賞をいただいたことにも等しく、大変喜ばしいことであります。

研修医の先生方には、これからもどんどん積極的に学会発表をしていただきたく、引き続き、指導医や各科の先生方のご協力とご指導をお願いいたします。

（文責：鹿児島医療センター循環器内科部長 藺田 正浩）

このたびは、第125回日本循環器学会九州地方会研修医セッションにおいて、最優秀賞という評価をいただき、大変嬉しく思っています。

今回の学会発表は私にとって、初めての学会発表だったこともあり、一生の思い出に残るものとなりました。至らない点も多く、発表演題の作成にあたっては数多くの方にご協力いただきました。この場をお借りして、症例選びから発表当日までお力添えいただいた藺田先生、田中先生、石川先生をはじめとする第二循環器科の先生方、アドバイスしていただいた心臓血管外科、腎臓内科の先生方、その他協力してくださった鹿児島医療センターの皆様にご礼申し上げます。

病棟においては多くの入院患者さんを相手にするため、なかなか一人の患者さんに対して深く考察することは難しいと思います。しかし、今回の経験を通して、先生方がどのようなことを考えて日々の診療にあたってののかを考える良い機会となりました。それと同時に自分の未熟さを改めて実感しました。

この結果に甘んじることなく、日々精進してまいりたいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

（文責：臨床研修医 中馬 佳奈子）



■お問い合わせ先

独立行政法人  
国立病院機構

**鹿児島医療センター**（心臓病・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

（代）TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 藺田・丹後田・田上・吉永・迫田・中田・椎原・吉留・櫻木・田辺・山之内・前田

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・久保・杉本・児玉

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

